

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 12月 第118号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

街から歴史が消えて行く

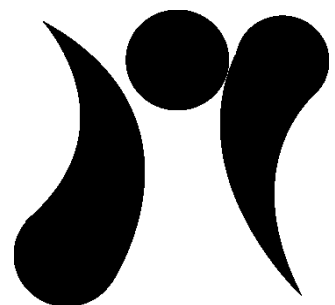
全国各地で、古くからの商店街がシャッター通りとなっています。この加古川でも、寺家町商店街からかつての賑やかさが消えて店舗が減り、市内に点在する大型スーパーとコンビニが日々の生活を支えています。

加古川の南部地区は古代から山陽道として人の往来が盛んな地域であり、私が住む野口町は、加古川の流れが自然のままに蛇行していた時代には、馬40疋を置く全国最大規模の『賀古の駅』が在ったとされ、遺跡も残っています。その後、加古川の治水が整うに連れて、現在の加古川町に宿場が拓かれ、街が造られ、お寺が集まり、寺家町商店街につながって来ました。

古事記や日本書紀・播磨風土記によれば、西暦72年に景行天皇が自らの后を探しに加古川の地を訪れ、播磨稲日大郎姫(はりまのいなびのおおいらつめ)を皇后とし、日本武尊(やまとたけるのみこと)が生まれました。西暦122年に皇后が没して、日岡に墓を造ったとされ、日岡山古墳は今も宮内庁の管理下にあります。2000年前の加古川周辺は、古代の大和朝廷が頼りとする経済力を持った豪族が支配していたことが偲ばれる話であり、日本武尊の活躍と大和朝廷の成立を支えた生産力と経済力と政治力が、この加古川に存在したのです。寺家町商店街につながる道筋の下には、その歴史が埋もれています。

全国各地で繁華街ができる過程には、その地その地での地理的な条件や、社会的な変遷の歴史が隠されています。1000年～2000年に亘る、人の営みをつなぐ歴史があります。城や寺や宿場が造られ、その周りに人が集まり、その地域固有の文化を育み、伝統を伝えています。

《次ページに続く》



各地でその歴史と文化と伝統を伝える街並みが消え、新しい街と店舗に造り変えられています。そして、新たな歴史と文化と伝統を創造する営みが始まるのか、と考えるとき、スーパーやコンビニは10年もすると装いを変え、業種が変わる現実には直面します。テンポの速い変化に戸惑いながら、文化や伝統を育む歴史は、そんなに素早く創り上げられるものではない事に気付きます。時代の変化に即応しながらも、文化や伝統が伝わる道筋を残し、歴史を消さない努力と叡智が求められている事を強く感じます。

そして地域社会では今、老いて人生を締め括る営みと、新たな生命を生み出す営みと、その生命を育む営みが重ならず、次の世代に社会が繋がらない現実には直面しています。亡くなる人の数が急増し、その一方で生まれる子供の数が減り、人口が急速に減少して、100年後には日本の人口は現在の半数以下になると予測されています。

街とその歴史は、地域に住む一人ひとりの生命と生活の営みが連綿とつながって造り上げられてきたものであり、生命と生活のつながりが街の歴史をつなぐ為の一步である事を忘れてはならない、と思います。高齢者の介護に携わる者として、老いた生命が完結する営みから生きる力を受継ぎ、社会人として人生を締め括る営みから社会性を育む思想を学び、新たな生命が誕生する営みに結び付ける必要性を強く感じています。其れが、地域の歴史や文化や伝統をつなぐ原点であり、第一歩だと感じます。

高齢者介護の現場は、老いた人の生命と生活が終焉を迎える営みに向き合っている現実をしっかりと受止め、次の世代にその営みを引継ぎ、生きる力を伝え、歴史をつなぐ役割を果たす努力を積み重ねたい、と願っています。

せいりょう園 渋谷 哲

平成22年度第4回グループホーム・小規模多機能運営推進会議の報告

日時 平成22年11月27日(土) 14:00~16:00

特養1Fホールにて

意見交換

- ・ 最期まで自宅で過ごすためにはどうすればよいか?
- ・ 父親の介護をしている時、医師に勧められ胃ろうをしたが、後で困った。
- ・ 母親の住まいは、とにかく自分の自由に暮らせるよう考えて今のケアハウスを選んだ。母親は自由に元気に暮らしている。
- ・ グループホームでターミナルを迎えるまでに家族と職員間で意見の違いがあり、節目節目で話し合いを重ね、関係を修復できた。
- ・ 参加した利用者の方々から「解らないことがあっても職員に聞くと教えてくれるので安心して暮らしています。」

介護についてみんなで語ろう会

テーマ「利用者の外出について」 11月26日(金)

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

今回の語ろう会では、司会者が投げかけるテーマについて本人の立場、地域住民の立場、家族の立場、職員の立場で意見してもらおうという新しい試みをしました。

意見が違うことを正したり、何か答えを出すのではなく、他の視点から見た、違った価値観があるということをお互いが知るということが狙いです。

NHKで放送されている「サンデル教授の白熱教室」という番組をご存知でしょうか？ハーバード大学の政治



哲学の教授が、「正義」について学生や一般聴講者と議論していく内容です。活発に意見交換される中では、もちろん他人とは違う意見もあります。意見を押しつけたり是非を問うのではなく、なぜその人がそう思うに至ったのかというプロセスを理解する、というところに特徴があります。結果として価値観が違い自分と答えが違っていても、そう考えるに至ったプロセスを理解することがお互いの発見に繋がるというものです。特に介護の場面では様々な方の「思い」があり、葛藤することがあると思います。その思いはどこからくるのか、誰の思いなのか。この語ろう会でもそれぞれの立場の意見に耳を傾けることで、あらたな発見ができればと思っています。

今回は「利用者の外出について」をテーマに皆さんと語りました。

利用者の外出について

せいりょう園では最期まで社会人の一人として人間らしい生活を送っていただくことを方針とし、拘束や抑制をしていない為、全ての施設の玄関は日中鍵を閉めていません。認知症があり徘徊の症状がある方でも外に出て行く場合があり、職員が気づくことができれば後ろからついていき見守りをします。

この方針を元に利用者の外出について皆さんに投げかけました。

せりょう園では日中玄関のカギを閉めていないことについてどう思いますか

- ・認知症は何も分からなくなってしまう病気なので、外に出さないほうが良いのではないか。事故にでも遭った場合、誰が責任をとってくれるのか（家族）
- ・認知症という病気は何も分からなくなってしまう病気ではなく、症状の進行によって様々ではあるが、その都度、何かを思い生活をしていると思う（職員）

認知症で徘徊のある方が花壇の花をちぎって持って行ってしまふかもしれないこと

- ・これは、過去に実際あったことです。畑で大根を収穫してもって帰ってこられたこともあります（職員）
- ・認知症で何も分からないので、本人がしたことは家族が謝罪するべきだと思う。しかし、外に出した責任は施設にあるのではないか（家族）
- ・たとえ認知症だとしても犯罪行為を行った場合は罪になるのではないか？その場合は本人は何も分からないので家族が責任をとらなければいけないが、「認知症の方を外に出した」という責任は施設にあるのではないだろうか（家族）
- ・人の家の大根を持って行くことは泥棒である。私たちと同じ社会人とするならば、本人を怒ったらダメなのか？本人の責任があるのではないか？（地域の方）
- ・何歳も年上の方なので「怒る」という表現ではなく、声のかけ方も重要ではないか（職員）

認知症で徘徊のある方が転倒したり、交通事故に遭ってしまうかもしれないこと

- ・法律では運転者側に事故の責任はあるが、車を運転している側だったとしたら、何故施設から認知症の方を出すのか、と思ってしまう（地域の方）
- ・事故が起きた場合、外に出してしまった施設の責任もあるのではないか（家族）
- ・老人ホームで起こることはすべて施設の責任になるのだろうか。本人の責任は、外に出て歩くという権利はないのだろうか（職員）
- ・ついて行く職員にも葛藤があると思う。実際に目の前で事故に遭えば責任を感じるのではないか（家族）
- ・拘束や抑制はしないが、その人にどれだけの生活力があるか見極め、支援するところに介護職の専門性があるので、どの程度の見守りが必要であるか、臨機応変に対応する必要があると思う（職員）

自分が認知症になり、徘徊の症状がある場合、外に出て行かないように閉じ込めておいて欲しいか

- ・閉じ込めておいて欲しい 5人
- ・閉じ込めて欲しくない 13人

○今回は答えを出したり、まとめることはしませんでした。代わりに詩を紹介させていただきました

「人生の実りの冬」

子供がきょうも心配してくれる
風呂に入っていると世話してくれる
ひとりでアパートにいることを納得しない
心配してくれるのはうれしいが
できる限り自分の人生を歩いて行く

子供のいい分もわかる
オーブンの火を消し忘れるかもしれない
でも私にとって
リスクのない人生はチャレンジも勝利もない

子供が小さいときにキャンプへ行くと心配した
でも保護よりはチャレンジを選んだ

もうテーブルは回った
どうか介護の柔らかい手に包まないでほしい。

—デンマークの80歳の女性の作品。死後発見され同国は老人福祉施策の理念としている—

○感想

私たちもそうですが、自由と権利には必ず責任が生じます。今回の語ろう会では、認知症になり介護が必要な方の自由と権利を考える上で本人の責任はどこにあるのか、という問題が浮き彫りになったのではないかと思います。

どのような状態になったとしても一人の社会人として尊重される生活を送っていただくことが、介護の仕事の役割だと思っています。ただ、介護の場面では様々な方の「思い」があり、葛藤することがあると思います。そんな中では、多くの場面で「本人の思い」という視点は話されていないことが多いのです。本人以外の誰かの思いが、「本人の為に」と本人の自立や権利まで奪っているのかもしれないかもしれません。紹介した詩の中にある「介護の柔らかい手で包まないでほしい」、とはそういう状況なのだと思います。

認知症になったら、何も分からなくなってしまうので、その人の人権もないのではないか？という意見がありました。そういった意見のある中、私は皆さんに最後の質問をしました。

「自分が認知症になり、徘徊の症状がある場合、外に出て行かないように閉じ込めておいて欲しいですか」

その答えに否定も肯定もしないつもりで聞きました。

「閉じ込めて欲しくないですか」という質問に対して実際に老人ホームに入所されている方が手を挙げておられました。その方は認知症のある方でパーキンソン病を患い、その影響で足の運びが小刻みになり何度も転倒を繰り返されている方でした。その方は私の話を真剣に聞いてくださり、手を挙げられたのです。その行動を見て参加されている方々は驚きの声をあげておられました。私はその方に、「なぜ手を挙げたのですか？」と尋ねたところ「自分自身のことですから」とはっきりとした口調で答えられました。今回の語ろう会で、一番説得力のある場面だったと思います。

1月の介護について語ろう会は… 1月28日「胃ろうのことをよく知ろう」



講師 天台宗教信寺法泉院 長谷川 慶悟住職

せいりょう園仏教講話は平成18年12月6日に始まった。今回の講話で5年目に入る。その記念の講話を引き受けて下さったのは、天台宗、法泉院 長谷川慶悟住職。以前に一度来て頂いて今回が二回目。「記念すべきタイミングにいささか緊張しますな」でスタート。講話への依頼を受けられた時は、この日(6日)は珍しく一日フリーで、了解して下さったのだが、その後、檀家さんに不幸がありお葬式ができた。しかし幸運にも(私達にとって)講話の時間は十分確保できるはずであったが、別の檀家さんから『生前戒名』を受けたいとの願いが入って大忙しの一日に一変してしまったとのこと。戒名/法名を受けることを『得度受戒:とくどじゅかい』と言って、現在、人は亡くなって『戒名』を頂くのが圧倒的に多いが、本来は生前に戒名を授かる儀式だったらしい。キリスト教にあっては生まれてすぐに洗礼を受けると『ホーリーネーム:聖名』(Holy Name)が授けられる。

一般的に『得度受戒』とは僧侶として守るべき戒律を受けて出家することを指すが、在家のまま『得度受戒』に臨むこともできるらしい。戒律とは仏教界にある『十悪』を全て否定形にしたもの。代表的なものは

☆ 故意に生き物を殺しません(殺生はしない)

☆ 嘘をつきません

☆ 間違った見解を持ちません(教えをまもります)

その他には、乱暴な口は利かない、悪口は言わない、無駄な噂話はしない、異常な怒りを持たない、強欲を持たない、淫らな行為をしないなどがある。

しかし、殺生はしないとは言っても、食事をせずに生きていくわけにはいかない。食べるものすべてに命がある。動物はもちろん、植物だって生きている。口にするものすべてにかけがえない命が宿っている。食事の前に『頂きます』と言うのは「これからあなたの命を頂きます。しかし、頂いた命を決して無駄にはしません。頂いた命を私の命で以って、世の為人の為に尽くします。」と宣言して(宣誓して)いるのです。

『得度受戒』とは、これまでの自分とは違う自分になる、なるように努めることで、それはすなわちお釈迦さんの弟子になることを意味する。『生前戒名を受ける』ということは、生きている間に仏さんのお弟子さんになろうとすることである。出家するわけではないが、形として髪に剃刀をあて、『剃髪式(ていはつしき):出家得度して仏門に入る時に行う剃髪の儀式』をやって、自らの欲望、煩惱を捨て去ろうとする。そして、『戒名』と『数珠』を受ける。『戒名』には、本人の名前の中から一文字、もう一文字はその個人をあらわす特徴的な事例(例えば趣味・特技など)から選ばれるらしい。ご住職の法名は「慶悟」。幼名は「悟」の一文字。「慶」は「法泉

院」のご住職が代々付けられるらしい。『慶悟』: 悟りを慶ぶ / 悟ることを慶ぶ。かなりのご満悦の様であります。

最後に「皆さんは長く生きてこられて、大変いい顔をしておられる。自分たちの年代と違って戦争を体験され、きっと厳しい時もあったでしょうが、それらを乗り越えてこられて、本当に輝いておられる。大木も同じです。教信寺には樹齢百年になる桜があります。普段はかなり傷んだ姿に心配するのですが、時期が来るとそれは綺麗な、立派な満開の花を咲かせてくれます。これからも命を尊ぶ心、祈りの心、感謝の心、いつくしむ心を育て一歩ずつ菩薩さん・如来様に近づいて行って下さい。心身共に健康で、長生きして下さい。心が燃えていないと体も衰えてしまいます。」

お忙しく時間のない中、質問にも丁寧に答えて下さってありがとうございました。

本年中にお世話になった皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。よいお年をお迎え下さい。1月は『仏教講話』お休みです。風邪とお腹に気をつけましょう。

せいりょう園待機者状況

<平成22年 12月8日現在>

グループの内訳

Iグループ … 132名

IIグループ … 148名

IIIグループ … 95名

○入所判定済み者の現在状況

在宅150名 / 特別養護老人ホーム入所中9名 / 医療機関入院中113名

老人保健施設入所中82名 / ケアハウス入居中5名 / グループホーム入居中11名 / 不明5名

辞退その他

他施設入所3名 / 死去5名

ケアハウス等空き情報 <平成22年 12月15日現在>

《ケアハウス》

・ 恵泉	: 1人部屋若干	・ あさなぎ	: 1人部屋1室
	: 2人部屋若干		: 2人部屋1室
・ 第二ケアハウス恵泉	: 1人部屋若干	・ シナガ 御津	: 1人部屋2室
・ 志深の苑	: 1人部屋1室	・ せいりょう園	: 1人部屋1室
・ ケアハウスアゼリア	: 1人部屋8室	・ 青山苑	: 2人部屋3室
	: 2人部屋2室	・ めぐみ苑	: 1人部屋1室
・ ウェルビツグ はりま	: 1人部屋1室	・ サリットひまわり園	: 2人部屋1室

[問合せ]せいりょう園介護相談室

Tel.(079)421-7156/(079)424-3433

せいりょう園 毎週の行事

- 月曜日 のびのびルーム (自彊術)
火曜日 のびのびルーム (映画会)
水曜日 のびのびルーム (カラオケ)
音楽療法
自彊術療法
木曜日 のびのびルーム (自彊術)
金曜日 ピアノ教室
陶芸教室 造形教室
- 第2火曜日 折り紙教室
第1・3火曜日 書道教室
第2・4水曜日 お話グループ・福寿草の会

せいりょう園 1月の行事予定

- 1月 8日(土) 砂川恵理歌ミニコンサート
1月10日(月) 共生の会
1月14日(金) 初詣
1月15日(土) 園長との懇談
1月17日(月) 美容の日(従来型)
1月19日(水) 美容の日(ユニット型)
昼食会
1月21日(金) 郷土料理
1月28日(金) 介護についてみんなで語ろう会
～胃ろうのことをよく知ろう～
1月31日(月) 理容の日

せいりょう園 12月の行事



12月4日 ロンドンアンサンブル



デイサービスにて

